

特別支援学級 自立活動学習指導案

場 所 家庭科室

児 童 男5名 女0名 計5名

指導者

1 単元名

みんなでつながろう～きらめきおにぎりでピクニック～

2 児童について

児童は、前年度、生活単元学習でカレー作りや遊び場作りを行い、学校内の先生や〇〇小学校の特別支援学級の友達と一緒に交流をすることで関わりを深めてきた。その際、自分の思いを友達に伝えることができたり、学習材を通して、他者に喜んでもらう経験を積んだりしてきたことで、自分達の活動のよさを感じ、個々の自己肯定感を高めることにもつながってきている。しかし、相手の気持ちを考えながら行動したり、友達と支え合いながら活動したりするよさを実感しているとは言えない。

そこで、昨年度までに学習した「相手や人数、場所を考えて説明をすること」「感謝の気持ちを持ち、それを相手に伝えること」を生かしながら、学習材を通して、他者と関わることでできる活動を行っていく。その中で、友達同士互いの考えを交流し合いながら、活動を創っていくこと、相手の気持ちを考えながら他者と関わることを、人との関わり方を身に付けていくことに効果的だと考える。

3 単元の指導構想

(1) 単元について

本年度の自立活動は、人間関係の形成に重点を置き、1期の「あいさつ」、2期の「相手との関わり方」、3期の「集団の中での活動の仕方」の3つを柱に計画している。本単元は、2期の「相手との関わり方」を学習するために、特別支援学校教育要領自立活動編の、自立活動の内容、3人間関係の形成「(1) 他者とのかかわりの基礎に関すること」と、「(2) 他者の意図や感情の理解に関すること」に係る単元である。

本単元では、「きらめきおにぎりを作り、他者との関わりを深める」という活動を通して、互いを認め合いながら目標に向かって取り組む力と、他者と関わることで相手の気持ちを考え、場に応じた適切な行動をとる力を養っていき、人とのつながりを深めていく。そのために、学習材は「おにぎり」とした。おにぎりは、調理が簡単で成功体験を得やすく、活動中に友達同士でアドバイスをしやすい。中に入れる具材も、自分で選んで入れることができ、一人一人の特徴を出すことができる。また、おにぎりを調理する際には「にぎる」という作業が入る。実際に自分でおにぎりをにぎることで、食べてもらう方に喜んでもらうという思いをより高めることができる。さらに、〇〇小学校の友達とピクニックに行き、一緒におにぎりを食べることで、相手に楽しんでもらうための関わり方を考えたり、それを行動に移したりしながら、人とのつながりを深めることができると考えた。

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・ 状況の理解と変化への対応に関すること	・ 他者とのかかわりの基礎に関すること ・ 他者の意図や感情の理解に関すること			・ コミュニケーションの基礎的能力に関すること ・ 状況に応じたコミュニケーションに関すること

(2) 指導にあたって

児童の深い学びの姿を次のように捉え、その実現に向けて、以下のような手立てをとる。

<育てたい資質・能力>

- ・ みんなで決めた計画に沿って、見通しをもちながら活動を進めていくことができる。 【知・技】
- ・ 自分の思いを様々な表現方法で友達に伝えたり、友達の思いを受け入れたりすることができる。 【知・技】
- ・ 関わる相手の行動や言葉、表情などから、相手の気持ちを考え活動している。 【思・判・表】
- ・ 同じ目標に向かい、友達と支え合いながら活動することを楽しんでいる。 【学】

<深い学びの姿>

- ・ 〇〇小学校の友達と、もっと仲良くなるためのピクニックを成功させるために、おにぎり作りを通して、自分の考えを素直に表現したり、友達の思いを受け入れたりしながら、助け合い、活動する姿

視点1 深い学びを実現する単元構成

- みんなで話し合った単元計画を掲示しておき、活動の達成状況を確認したり、見通しをもって学習に参加したりできるようにする。また、1時間に行う活動内容を板書に位置づけ、単位時間でも見通しをもち、できたことを価値づけていくことで、自分達の活動のよさを実感し、自己肯定感を高められるようにする。
- どの時間も、学習課題を達成するための個々の目標を設定することで目的意識をもって活動に取り組めるようにする。また、必ず自分の活動を振り返る時間を設定し、その時間にできたことを実感し、自己肯定感を高められるようにする。

視点2 問題解決的な学習展開の充実

(1) 主体的な学びを促す手立て

- ・ 実際におにぎりを作る体験的な活動や、児童の必要感に応じていろいろな人と関わる場面を繰り返し設定することで、みんなで決めた目標に向かって、主体的に取り組むことができるようにする。
- ・ 活動中の児童の様子を見とり、写真や動画、絵、メモなど個々に合った表現方法を提案することで、自分の思いを進んで表現することができるようにする。

(2) 対話的な学びを促す手立て

- ・ 毎時間、自分ができたことを話す場面を設定し、みんなで認め合うことで、自分の成長を実感できるようにしていく。また、相手の話を聞く時の態度やマナー、質問の仕方も繰り返し確認することで、相手の思いを受け入れることにつなげていきたい。
- ・ 活動に合わせ、ペアで相談をする時間やグループで話し合う時間、全体で話し合う時間を設定することで、様々な場面で自分の考えを伝える経験を積んでいけるようにする。

4 単元の指導計画

(1) 目標

- ・ 「きらめきおにぎりを作り、食べてもらうことで人とつながる」という目標を達成するための計画を立て、見通しをもちながら活動を進めていくことができる。 【知・技】
- ・ おにぎり作りやピクニックを通して感じた自分の思いを友達に伝えたり、友達の話に真剣に耳を傾け、聞いたりすることができる。 【知・技】
- ・ 友達とアイデアを出し合ったり、アドバイスをし合ったりしながら、手順通りにおにぎりを作ることができる。 【思・判・表】
- ・ きらめきおにぎりを作り、〇〇小の友達と会食をするために、友達と協力しながら活動することを楽しんでいる。 【態】
- ・ 他者と前向きな気持ちで関わり、さらに友達と仲良くなろうという思いをもつことができる。 【態】

(2) 評価規準

児童	A児（1年男子）	B児（2年男子）	C児（4年男子）	D児（4年男子）	E児（5年男子）
人間関係の形成に関わる実態	友達と積極的に関わりたい気持ちがある。 語彙が少なく、自分の気持ちを理解してもらえないことが多い。	皆と仲良くなりたいたいという思いがあり、積極的に関わる。 自分のペースで話し続けたり、強引に誘ったりするなど、相手意識に乏しい面も見られる。	皆と関わりたいという思いがあり、友達に話しかけたり、誘ったりする様子が見られる。 厳しい言葉で相手に注意をしたり自分の気持ちを伝えたりすることがあり、誤解されやすい。	友達に優しく、明るく接しているのので、友達が多い。 言いたいことがあっても、我慢してしまうことがあり、「うまく伝えられるといいな。」という思いをもっている。	優しい気持ちで友達と関わるができる。 自分の思いを伝えたいという思いはあるが、語彙が少なく、友達に言えなかったり、言っても伝わらなかったりすることがある。
個人目標	活動内容を理解し、友達と楽しく活動することを通して、自分なりの考えをもち、相手に思いを伝えることができる。	自分が話すところ、相手の話を聞くところの区別をつける。伝えたい内容を決めて、相手に分かるように話すことができる。	自分の気持ちや考えを伝える前に、何を話すかを整理する。メモを見るなどしながら、話す内容を振り返り、必要に応じて修正できる。	自分の考えをもつて、どのように伝えるかを考える。話す内容をあらかじめ決めて、相手意識をもつて伝えることができる。	活動内容に沿った自分の考えをもつことができる。また、友達と考えを伝え合いながら、力を合わせて活動することができる。
手立て	・ 自分の思いを伝える場面では、事前に話す内容を決めて置き、練習をしておくことで、	・ 事前に話す内容を一緒に考え、書いたものを声に出して読み返すことで、自分が伝	・ 話す内容を一緒に考えておく。 ・ 厳しい言い方をしそうなとき（怒っている時・悔し	・ 事前に話す内容を決め、練習しておくことで、自信をもつて話すことができるよう	・ 自分の作ったおにぎりの説明を言えるように、事前に話すことを整理しておき、自

自信をもって言えるようにする。 ・気持ちを表すことができるような掲示物を用意することで、自分の思いを友達に伝えられるようにする。	えたい内容を確認できるようにする。 ・質問できる時間を保障することで、最後まで聞くことができるようにする。	い時)は、その場を離れるように声かけをする。 ・発表する際には、ペアで練習するなどして、友達に聞いてもらい、自信をもてるようにする。	にする。 ・絵や図を示しながら話すことで、自分の考えを正確に伝えられるようにする。	信をもって言えるようにする。 ・1時間の成長を振り返られるように、学習課題を解決するための目標を一緒に決め、それを意識しながら活動するように声をかけていく。
---	--	---	--	---

(3) 指導計画 (10時間)

段階	時数	○主な学習活動・予想される児童の思いや考え	指導の手立て
オリエンテーション	1	<p>○昨年度の活動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ みんなで力を合わせて、おいしいカレーを作ることができた。先生にも喜んでくれたね。 ・ にじいろランドで、〇〇小の友達と仲良くなった。 ・ 今年も、人とつながれるような活動をしたいな。 <p>○どんな活動にするか話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇小の友達ともっと仲良くなりたい。どこかに遊びに行けたらいいな。ピクニックみたいだね。 ・ 何か作って持っていったらいいね。みんなで食べられるものがいいな。 ・ 1年生もいるから、簡単なものだとみんなができそうだね。 ・ おにぎりだとみんなができそうだよ。具材も一人一人変えられそうだね。きっと喜んでもらえるよ。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">〇〇小学校の友達と、もっと仲良くなるために、きらめきおにぎりを作って、ピクニックに行こう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 映像を通して昨年度の活動を振り返ることで、今年度から在籍している児童にも活動のイメージをもたせやすくし、意欲を高めていけるようにする。 ・ 活動を決める際には、マグネットを用意しておき、自分の考えが友達にも伝わるようにする。 ・ 発表の仕方や聞き方を全体で確認する。
おにぎりを作ろう	1	<p>○学習のゴールとして、〇〇小学校の友達とピクニックをして交流することを確認し、単元全体の見通しをもつ。</p> <p>○おにぎりの作り方と必要な材料の確認をする。</p> <p>○食べてもらう人を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 決まった単元計画は掲示しておき、活動を見通すことができるようにする。 ・ 買い物をする際やおにぎりを配る際は、事前にあいさつの仕方など礼儀に関わることを確認する。 ・ 感想を伝え合う場面を作り、お互いの思いを知ることができるようにする。 ・ 自分の作りたいおにぎりを説明できるように、話型を示しておく。 ・ 給食室の先生への質問を個々に決めておき、練習をしておくことで、自信をもって質問できるようにする。
	2・3	<p>○材料の買い物をする。</p> <p>○おにぎりを作る。</p> <p>○作ったおにぎりを食べ、感想を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めてにしてはおいしく作れたね。 ・ ご飯が崩れて、形が変になってしまったよ。 ・ のりもうまくつけることができななかった。 ・ もっと上手に作れないかな。給食室の先生に聞いてみたいな。 	
	4	<p>○給食室の先生に、おにぎりを上手に作るためのコツを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 〇〇小の友達に喜んでもらえるように、おにぎりをもっとおいしくするコツを教えてください。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">もっとおいしい「きらめきおにぎり」にしよう</p>	
	1	<p>○給食室の先生からおにぎり作りのコツを教えてください。</p>	
そレベルアップを目指 (本時)	2	<p>○教わったことをもとに、おにぎりを作る。</p> <p>○先生や給食室の先生に食べてもらい、感想を頂く。(感想) とってもおいしいおにぎりになったよ。レベルアップしたね。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">これで完成だね。〇〇小の友達とピクニックに行こう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達とコツを確かめ合いながらおにぎりを作ることができるよう、グループで調理を行うようにする。
食べてもらう	1	○ピクニックに向けての準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ピクニックの様子を写真にとっておき、振り返りの際に見せることで、喜んでもらっている様子が伝わるようにする。
	2	○ピクニックを開く。	
	3	○活動を振り返る。	

5 本時の指導計画

(1) 目標

- ・ ピクニックに向けて、前よりもおいしいおにぎりを作る活動を通して、給食室の先生に教えて頂いたおいしく作るコツを意識し、友達とアドバイスをし合いながら作ることができる。

【思・判・表】

(2) 評価規準

A児	B児	C児	D児	E児
教師の話の聞いたり、友達にアドバイスをもらったりしながらおにぎり作りをすることができる。また、食べた感想を友達に伝えることができる。	おにぎりの作り方について、分かったことを話すことができる。また、人の話を最後まで聞いてから質問ができる。	おにぎりの作り方について、コツを意識してできたことを話すことができる。また、最後まで友達の話を聞くことができる。	おにぎりの作り方について、おいしく作るコツを意識した部分について話すことができる。また、友達の話を聞いて自分の考えをもつことができる。	教えて頂いたおにぎりをおいしく作るコツを確認しながら、活動に取り組んだり、友達にアドバイスしたりすることができる。

(3) 展開

(主) 主体的な学びを促す手立て・(対) 対話的な学びを促す手立て

段階	主な学習活動・学習内容	教師の支援 (◇評価)	資料 等
導入 (5分)	1 給食室の先生に教えて頂いたおにぎり作りのコツを確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ お米をつぶさないように、優しく握ることが大切だったね。 ・ 前よりもおいしいおにぎりが作れそう。楽しみだな。 2 本時の学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> もっとおいしいおにぎりを作ろう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教えて頂いたコツで作った合言葉を全員で言うことで、おにぎりを作る際に意識できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 視覚的に作り方のコツが分かるように板書に位置づけ、必要ときに確認できるようにする。 <p style="text-align: right;">(主)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食室の先生の写真 ・ おにぎりを上手につくるコツが書いてある掲示物
展開 (30分)	3 おにぎりを作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 具材の量は大丈夫かな。 ・ 最初のご飯の量は、少な目、具材を入れてからご飯をのせるんだったね。 4 実際に食べてみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前よりもお米を優しく握ったから、ふっくらしているよ。 ・ のりも上手につけることができたよ。 5 給食室の先生に食べて頂く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前よりも形が整っているね。 ・ お米もつぶれていない。優しくにぎれたね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループごとにおにぎりを作るように場を設定することで、友達にアドバイスをしたり、困っている時に質問したりしやすくできるようにする。 <p style="text-align: right;">(対)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ A児には、分からないことを一緒に確認し、友達に聞くように声をかけることで、アドバイスをもらえるようにする。 ○ E児には、おいしく作るコツを忘れないように声をかける。また、下級生に手順を教えてあげられるように声をかけることで、友達と関わり合いながらおにぎりを作ることができるようにする。 ○ D児には、活動中のよいつぶやき(うまくいったところ)を価値づけることで、前回との違いに気付き、振り返りで友達に伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おにぎりを作るための手順表
まとめ (10分)	6 本時の学習を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> ○ 頑張ったことやうまくいったこと <ul style="list-style-type: none"> ・ おいしく作ることができて嬉しかった。 ・ 給食室の先生にも、レベルアップしたと言ってもらえて嬉しかったよ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> やった！おいしいおにぎりが完成したよ。きらめきおにぎり、大成功だね。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 次の時間に取り組みたいこと <ul style="list-style-type: none"> ・ ピクニックでおにぎりを食べてもらうことが楽しみだね。準備を始めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ B児には、視点を与え活動を振り返ることで、学習課題に沿った自己の振り返りになるようにする。 ○ C児には、おにぎり作りのコツを入れて振り返ることで、前回よりもおいしくできるようになった点を友達に伝えられるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○小学校の友達にも喜んでもらえるものになったという思いを共有できるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ◇ おいしくおにぎりを作るコツを、自分で確かめたり、友達とアドバイスし合ったりしながら、さらにおいしいおにぎりを作ろうとしている。 <p style="text-align: right;">【思・判・表】</p>	

